



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



令和8年度 事業計画・収支予算 (血液事業特別会計)

1. 血液事業を取り巻く社会環境の変化

(1) 今後の血液事業を取り巻く環境

- 少子高齢化に伴う献血可能人口※の減少
- 人口移動に伴う献血可能人口の地域偏在の進行
- 血漿分画製剤の需要増加に伴う必要献血数の増加

将来(2045年)においても必要献血数を安定的に確保するための基礎となるものを「**将来の献血基盤**」として、その構築を目指すこととする

(2)「将来の献血基盤」の構築に向けて

「将来の献血基盤」とは、20年後(2045年)においても
必要血液量を安定的に確保するための基本戦略

将来の献血基盤

2つの柱

献血確保体制の見直し

全国の必要血液量を社会環境等に応じた全国的な役割分担により確保する体制とする

現在:ブロック内の必要血液量をブロック内で確保

実献血者の構成

必要血液量を確保するため実献血者の数や構成を設定し実現する

現在:必要血液量を確保した結果が実献血者数



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



Toward 2045

変わるぞ、血液事業

「人口減少・人口偏在社会」における
血液事業の持続可能性に挑む！

2. 令和8年度事業計画概況

供給計画 (血液製剤の 供給数)	赤血球製剤	652万単位 (330万バッグ)	合計 1,736万単位 (502万バッグ)
	血漿製剤	217万単位 (90万バッグ)	
	血小板製剤	867万単位 (82万バッグ)	
供給計画 (血漿分画製剤用 血漿供給量)	凝固製剤用	35万L	合計 123万L
	一般製剤用	88万L	
採血計画 (献血者数)	全血献血	340万人	合計 498万人
	血漿成分献血	104万人	
	血小板成分献血	54万人	

※ 供給数は200mL全血献血から得られる量を1単位として換算した数。血漿製剤の換算は、FFP-120を1単位、FFP-240を2単位、FFP-480を4単位としていること。
 カッコ内は実バッグ数。

※ 数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

※ 採血計画の献血者数については、血漿分画製剤用血漿量を日本赤十字社の確保量である124万Lとした人数であること。

【参考】過去の事業実績

	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 見込	R8年度 計画
--	------------	------------	------------	------------	------------	------------

○ 輸血用製剤供給量(万単位)

赤血球製剤	647	650	653	657	651	652
血漿製剤	209	209	213	215	215	217
血小板製剤	868	865	878	866	866	867

○ 分画製剤用血漿(万L)

確保量	122.3	125.3	120	123	124	124
供給量	123.5	122	120	120	120	123

○ 採血量(万L)

全血献血	341	342	345	344	342	340
血漿成分献血	109	104	101	102	100	104
血小板成分献血	55	54	55	53	55	54

○ 献血者数(万人)

	505	501	501	499	498	498
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----

3. 令和8年度の主な取り組み(第三次中期事業計画)

(1)「将来の献血基盤」の構築に向けて

- ・高校献血実施率の増加に向けた取り組み
- ・日赤の事業の横断的連携による献血啓発活動の取り組み

(2)血液事業における安全管理体制の強化

(1) 「将来の献血基盤」の構築

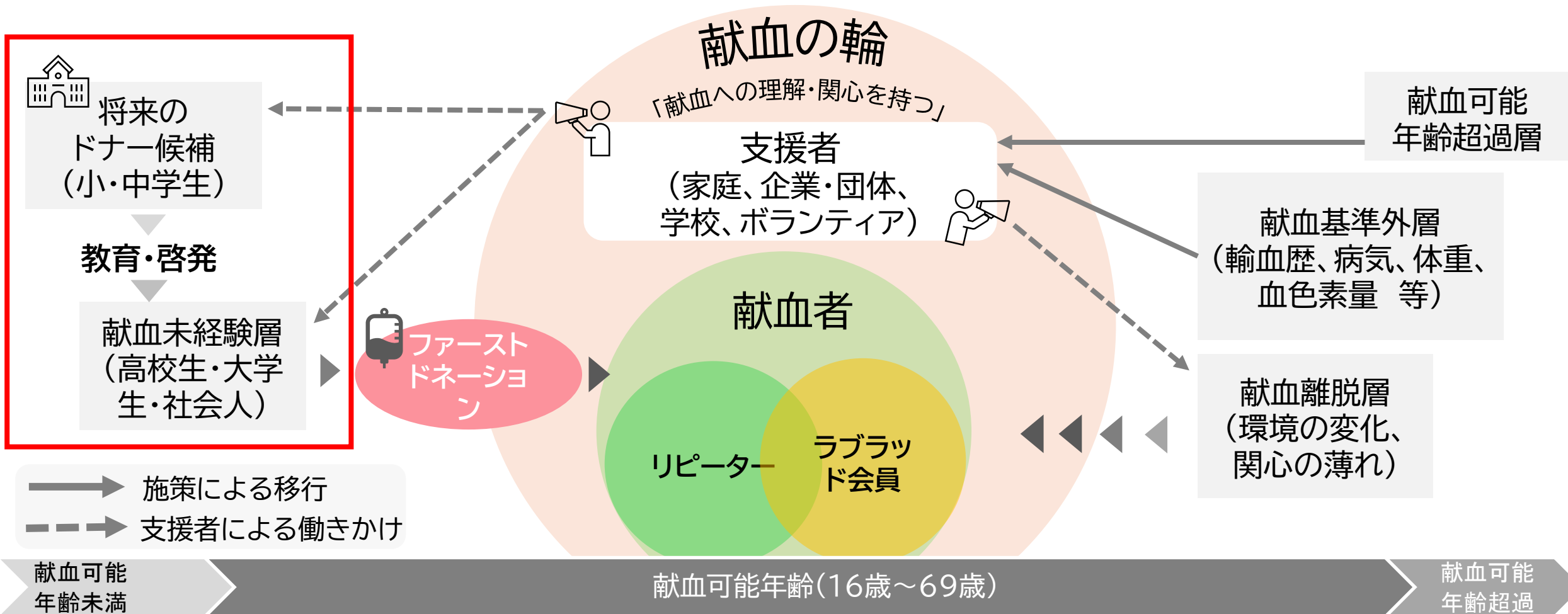
「将来(2045年)の献血基盤」の構築に向けて、全世代の国民に献血への理解と関心を持っていただくための献血協力体制をスキーム化し、20年後においても必要血液量を安定的に確保できる体制の確立を図る。

第三次中期事業計画の初年度にあたる令和8年度は、初めての献血(ファーストドネーション)に繋がる献血推進施策に重点的に取り組む。

また日本赤十字社の総合力を活かし、血液事業本部と事業局の双方向からJRC等と連携することにより、献血者だけでなく献血セミナーを入り口として赤十字活動全体を支えるボランティアの拡大に繋げる。

【参考】「将来の献血基盤」の構築のための献血協力体制のスキーム

「献血への理解・関心を持つ」ひと達と献血の輪への流れ

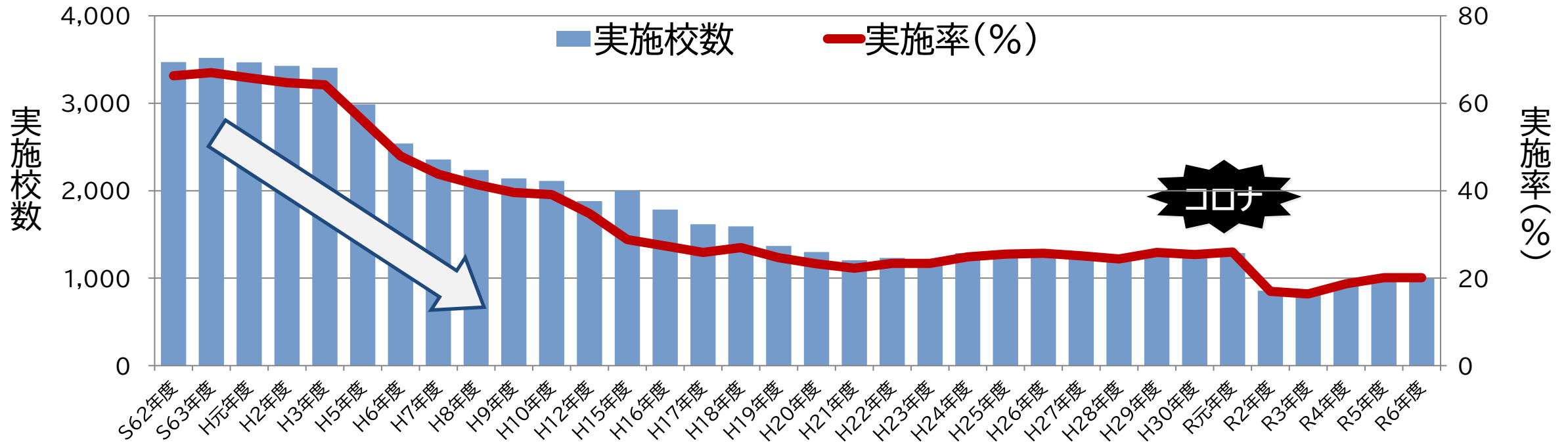


ア 高校献血実施率の増加に向けた取り組み

(ア) 実施状況

※ 各数値については高等学校等献血実態調査結果に基づく

※ 昭和 60, 61, 平成 4, 11, 13, 14 年度は、厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告しているため調査未実施



(高校献血が減少した要因)

- ・ 昭和61年に400mL献血が始まり、400mL由来の赤血球製剤の需要が高まった。
- ・ 日赤:400mL献血協力がより得られる高校以外の献血会場にシフトした。
- ・ 学校:400mL献血が主体となることで、採血可能な生徒が一部に限られること、さらには、採血量増加による生徒の健康へ影響の懸念等から、協力辞退が増加した。

(イ) 令和8年度の取り組み

高校献血の増加を目指す

- ➡ 国から発出される高校への通知内容の検討
- ➡ 200mL献血をファーストドネーションにつなげる取り組みの検討
- ➡ 高校献血の多い血液センターでの好事例の共有、等

高校献血の実施率

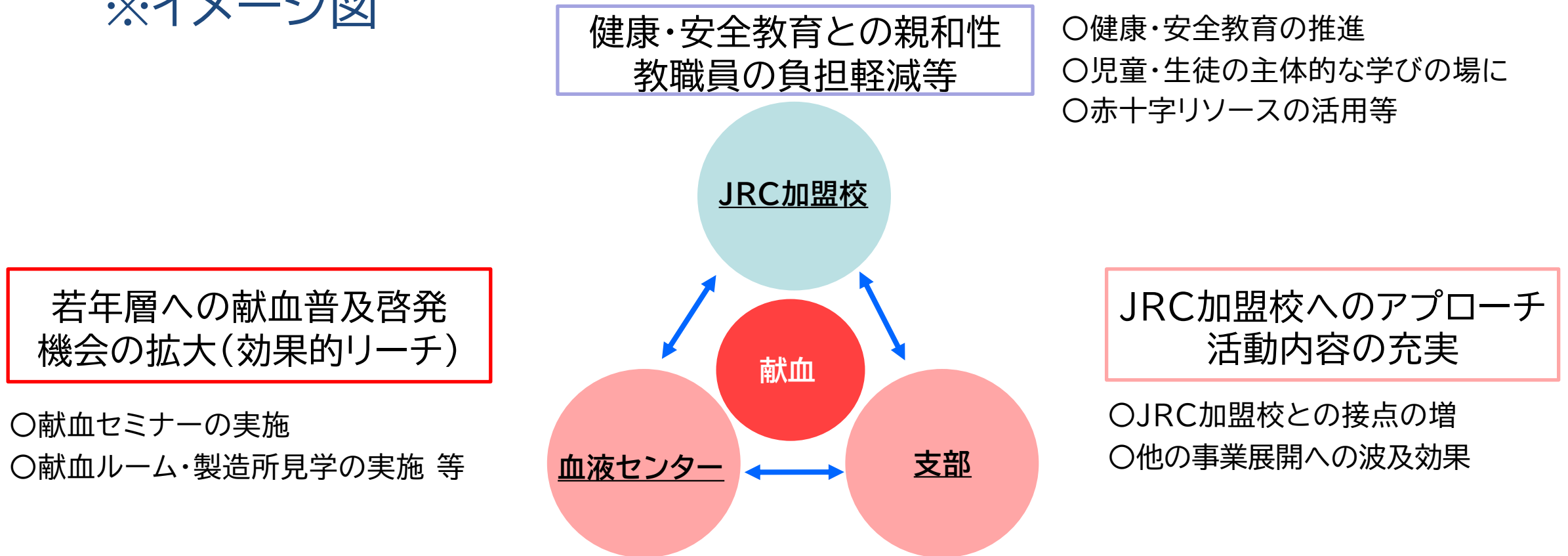
R6実績	R8	R9	R10
実施率 20.1%	実施率 21%以上	実施率 23%以上	実施率 25%以上
【参考】 実施校数 999校 献血者数 47,647人	【参考】 実施校数 1,050校 献血者数 50,000人	【参考】 実施校数 1,150校 献血者数 57,000人	【参考】 実施校数 1,250校 献血者数 65,000人

※H22～R1までの平均値は、実施率24.9% 献血者数64,500人であること

イ 日赤の事業の横断的連携による献血啓発活動の取り組み

(ア) JRC加盟校との連携による献血啓発

※イメージ図



事業横断的取り組みによるリソースの共有・事業連携による相乗効果

(イ) 令和8年度の取り組み

若年層への献血普及啓発の拡大

- ➡ JRC加盟校等への効果的な連携方法の検討等、日本赤十字社の
総合力を活かす

R8	R9	R10
<ul style="list-style-type: none">・JRC加盟校等との連携方法の構築・目標策定(児童・生徒対象啓発セミナーの実施校数等)	<ul style="list-style-type: none">・JRC加盟校等へのアプローチ・受入対象校における献血啓発セミナー等の実施	<ul style="list-style-type: none">・実施結果の検証と見直し

(2) 血液事業の安全管理体制の強化

ア 目的

国内唯一の採血事業者及び輸血用血液製剤の製造販売事業者として、献血者の思いに応えるとともに、安全な血液製剤を安定供給する責務がある。

血液事業に従事する職員の意識改革、業務手順遵守、安全管理体制の整備等、血液事業全般にわたり安全を確保できる体制を強化する。

イ 令和8年度の取り組み

(ア)職員の血液事業安全に対する意識改革

定期的に血液事業本部長メッセージ等職員の意識改革を促すため各種媒体を活用し、全ての血液センターにおいてあらゆる機会を捉えて職員の意識醸成の徹底を図る

(イ)安全管理体制の再構築

血液事業本部に設置する安全推進室を中心に、血液事業本部と各血液センターのリスク分析等の機能、運用等の体制を再構築する

(ウ)業務手順の定期的な点検と改善

各マニュアルに基づき、適切に業務が遂行されていることを自己点検を通じてモニタリングする

(エ)安全管理に関わるIT機器の活用、DX化

輸血用血液製剤の納品及び梱包作業について、IT機器を活用した業務手順の改善策を講じる



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

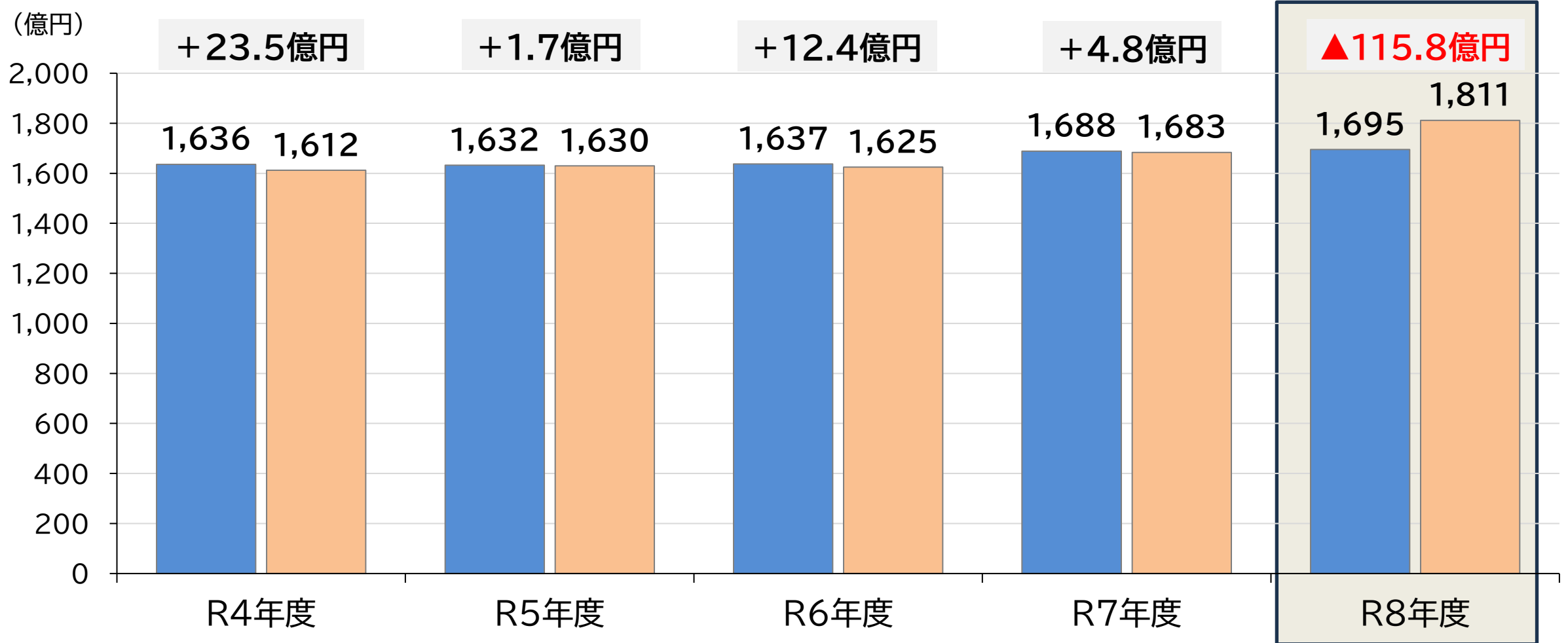


…収支差引額

4. 歳入歳出予算概要(血液事業特別会計)

(1) 当初予算の推移

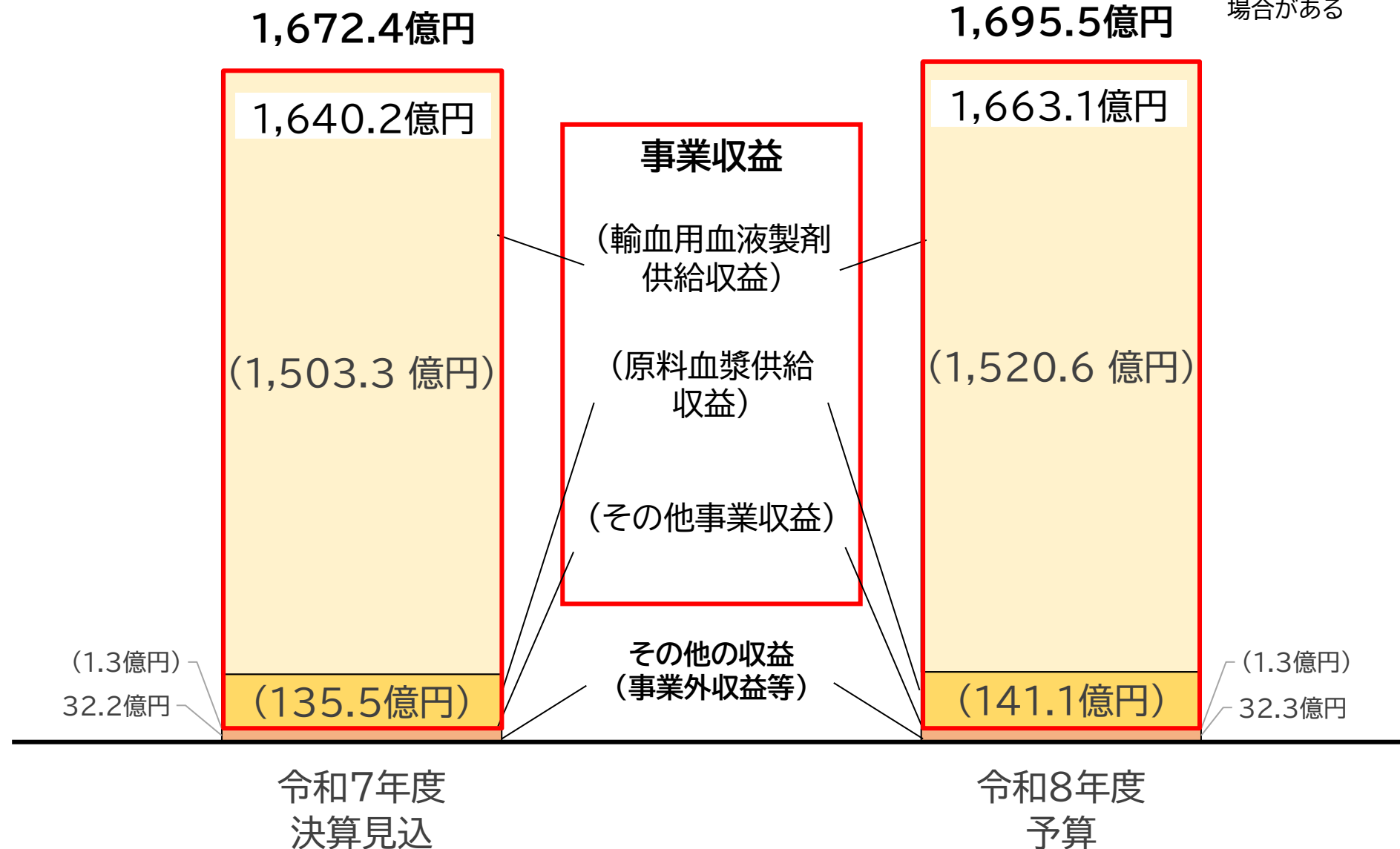
■ 収益的収入 ■ 収益的支出



※金額は、それぞれ0.1億円未満切捨てて表示しているため、収支差額が一致しない場合がある

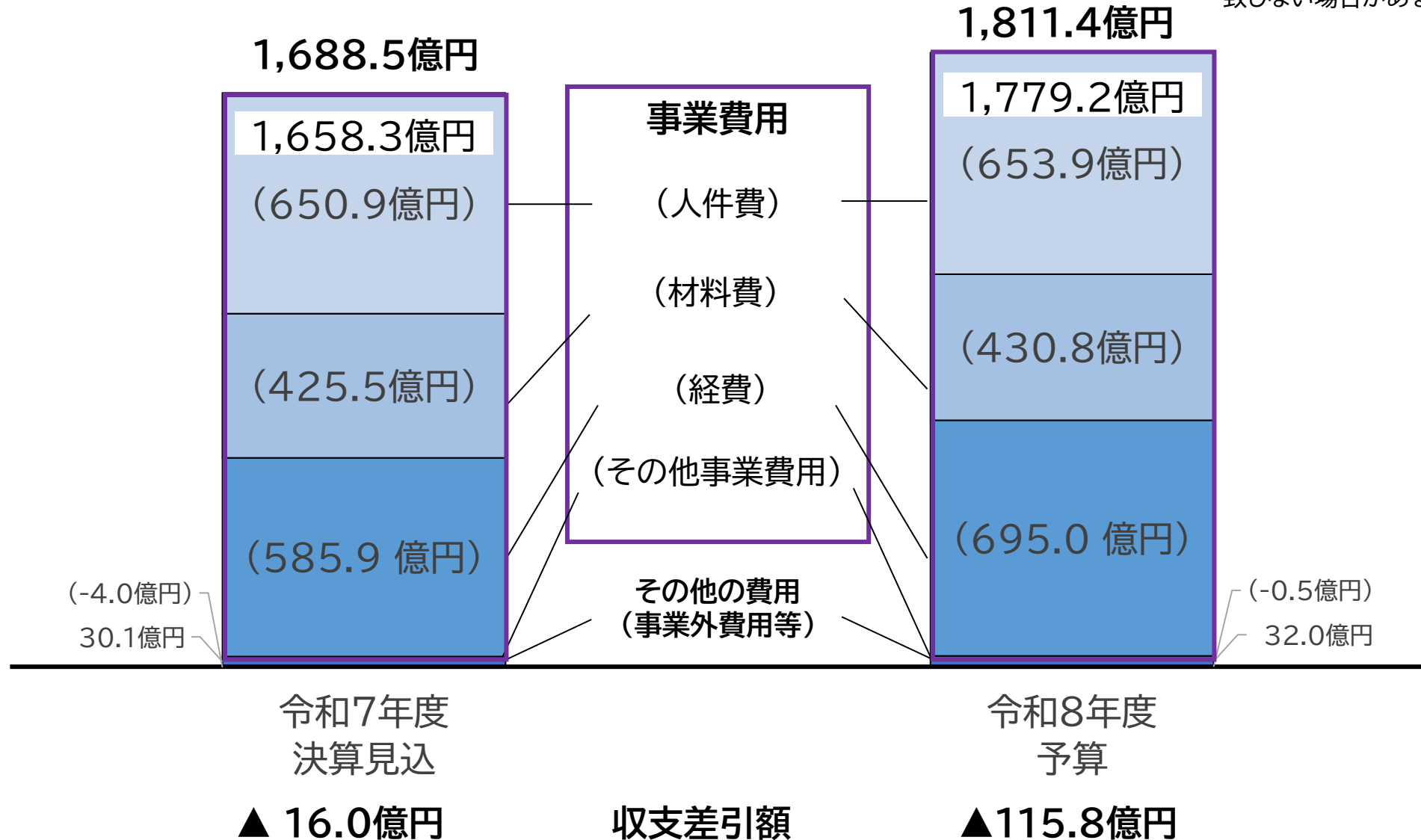
(2) 収益的収入

※金額は、それぞれ0.1億円未満を切捨てて表示しているため、合計額が一致しない場合がある



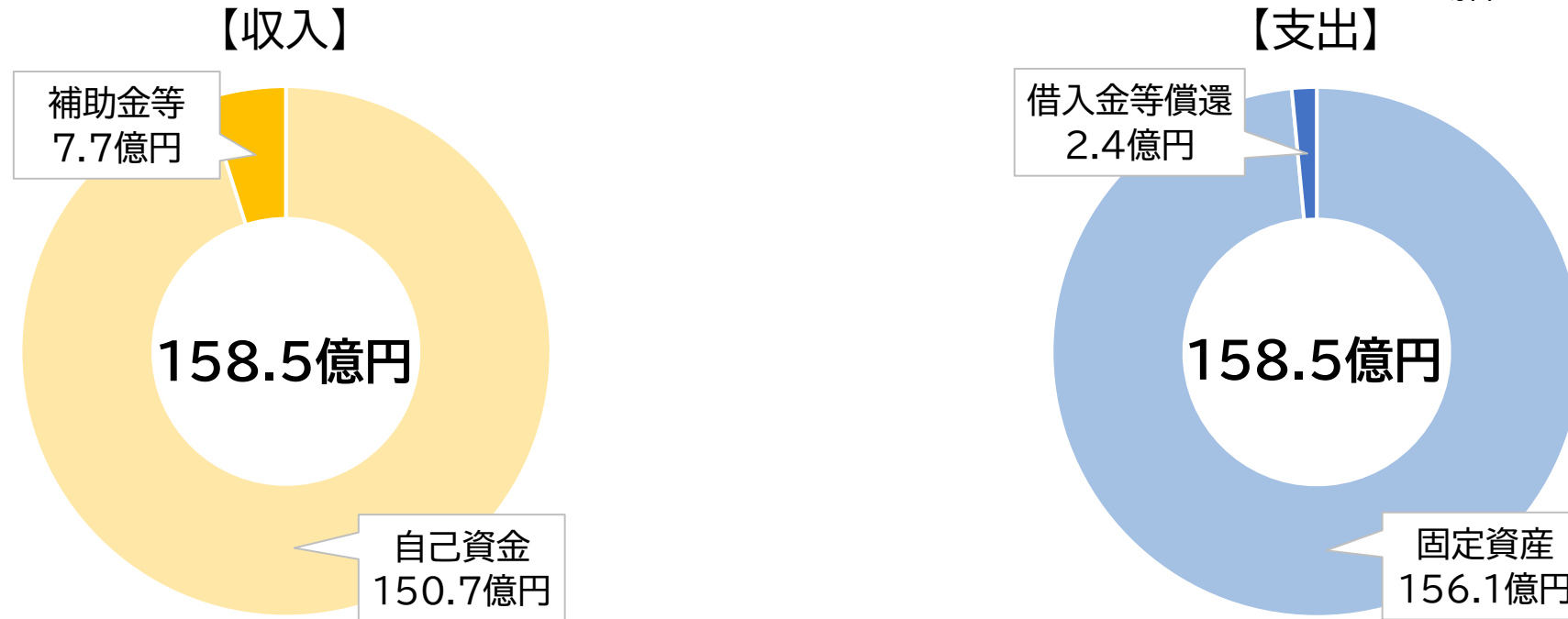
(3) 収益的支出

※金額は、それぞれ0.1億円未満を切捨てて表示しているため、合計及び収支差額が一致しない場合がある



(4) 資本的収支

※金額は、それぞれ0.1億円未満切捨てて表示しているため、合計額が一致しない場合がある



固定資産内容	金額
血液センター等の施設整備・改修	87.6億円
成分採血装置、全血採血装置、自動血球計数装置等の機器整備	40.7億円
基幹システムの開発及び血液製剤発注システムの改修	14.9億円
移動採血車、献血運搬車等の車両整備	12.8億円